

キャンパス候補地決定

—四年制大学設置に向けて その2 —

四年制大学設置委員会

具志川市が最有力の第二キャンパス候補地として浮上してきた所までは前号で報告した。今回は候補地決定に至るその後の経緯を簡単に報告する。

95年11月、具志川市昆布にキャンパスとして利用可能な土地があるとの情報があり、理事長・学長・設置準備委員が同地を視察した。11月9日に同市の仲本景美市長、兼城賢徳助役に原学長ほか設置準備委員2名が面談したが、大学誘致に対する具志川市の強い熱意に感銘を受けた。

その後、常任理事会・設置準備委員会の合同会議を開くとともに、具志川市との話し合いが続けられた。1996年6月、比嘉理事長が仲本市長を訪問、具志川市昆布を第二キャンパス候補地として積極的に検討することを伝えた。

7月には、教職員・事務職員全員に経過が報告され、職員は3班に分かれて候補地を視察した。教授会・事務職員説明会において、同地を第二キャンパス候補地とすることについて了承が得られ、9月26日の評議員会・理事会において、それが正式に決定された。

11月18日に原学長が仲本市長を訪問、理事長に代わって候補地決定の通知書を届けたところ、市は、早速翌19日には府議を開き、本学院の四年制大学を具志川市昆布に誘致する方針を決定している。

具志川市

市有地、無償譲渡へ キリスト教短大の4年制大学設置 2千平方メートル

4年制大設置の協力を確認

具志川市を表敬訪問

4年制大学設置で仲本具志川市長（中央）と話し合う
キリスト教短大関係者=10日、具志川市役所

（具志川）沖縄キリスト教短期大学の4年制大学設置申請準備を進めていたことを伝えている。今回の訪問で、非公式ながら具志川市は昨年11月、同市昆布に市内への設置に賛成し、市側は協力することを確認した。

（具志川）四年制大学の設置申請準備を進めていたことを伝えている。今回の訪問で、非公式ながら具志川市は昨年11月、同市昆布に市内への設置に賛成し、市側は協力することを確認した。

（具志川）四年制大学の設置申請準備を進めていたことを伝えている。今回の訪問で、非公式ながら具志川市は昨年11月、同市昆布に市内への設置に賛成し、市側は協力することを確認した。

（具志川）四年制大学の設置申請準備を進めていたことを伝えている。今回の訪問で、非公式ながら具志川市は昨年11月、同市昆布に市内への設置に賛成し、市側は協力することを確認した。

（具志川）四年制大学の設置申請準備を進めていたことを伝えている。今回の訪問で、非公式ながら具志川市は昨年11月、同市昆布に市内への設置に賛成し、市側は協力することを確認した。

（具志川）四年制大学の設置申請準備を進めていたことを伝えている。今回の訪問で、非公式ながら具志川市は昨年11月、同市昆布に市内への設置に賛成し、市側は協力することを確認した。

「琉球新報 1996年11月20日朝刊」より

「沖縄タイムス 1996年6月12日朝刊」より



沖縄キリスト教短期大学報

1997年3月15日

第41号

「国際交流こそ平和への近道」

学長 原 喜 美
国際交流委員会 委員長

本学は幸いにも今年度は三大学と姉妹校提携を結ぶことができた。目的は学生、教職員との交流研究の交換、共同研究、国際会議の開催、本学からの学部編入などである。

第一に、1996年10月25日には、ミシガン州立大学との正式な姉妹校提携が実現した。1993年以来、4回もの研修を重ね通算141名の学生が真に有意義な経験を積むことができた。引率には山里恵子・神山美代子・Jacobsen・渡久山朝裕・Ross・喜友名静子の諸先生が労をとって下さった。また職員は嘉陽千賀子、仲宗根末美、伊波智子、平良みどりの諸姉が助手として参加した。又、相手側のMSUの関係教職員の方々の並々ならぬご努力があってのことであり、このような実績をふまえて、この度の正式な調印式が行われ、感謝の至りである。

調印式は、丁度本学との交流を行っているCollege of Human Ecology の100周年記念日に当り、350名の卒業生が集合した大晩餐会の席上で行なわれた。（尚弘子前副知事も卒業生として表彰を受けられ、列席された。）MSUは13の学部・大学院をもつ4万人以上の学生が学ぶ大学



中央、ミシガン州立大学総長マクファーソン氏（左から3人目）
右となり、本短大 原学長

ミシガン州立大学との姉妹校提携の調印にのぞむ
学院理事長 比嘉國郎

で、式典にはマクファーソン総長はじめ、5名の学部長が出席され親しみに溢れた雰囲気の中で執り行われた。マクファーソン総長のお考えでは、出来れば4万人の学生一人ひとりが海外研修の機会をもつことであると述べられた。ミシガン州立大学の総長は、国際交流を最優先課題として考えて居られるのである。

第二はフィリピン国立大学との提携であり、昨年8月同大学を訪問し、交渉を続けていたのが実り、書類の交換は郵送により行い、1996年12月25日に調印、成立した。

第三はハワイ・パシフィック大学との提携である。実は1997年2月14日に行う予定で、私が本日その為にハワイに向かい出発するところである。フィリピン国立大学、ハワイ・パシフィック大学についての紹介は、学報次号にゆずる。

いよいよキリ短の学生達の実力が、グローバルに評価され験される時がやって来た。そして国際交流は相互的なものであり、私たちとして一体何ができるのか？ 特に沖縄の平和の問題をグローバルな問題として認識し、人と人、心と心の交流を達成することができるよう励みたい。

(1997年2月13日)



1996年度 カレッジライフ

5月 新入生オリエンテーションキャンプ

7月 七夕フェスティバル

10月 ハロウィーンパーティー

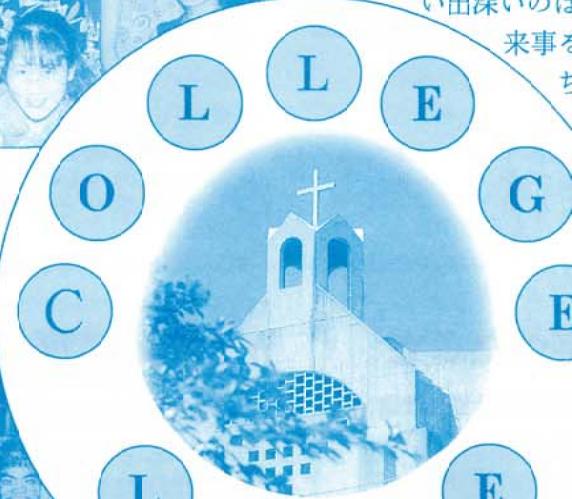
11月 第32回 キリ短祭

39期 学生会役員紹介

「共に喜び・わかつあう心」

39期学生会長 砂川美智子

毎日が充実したこの2年間、私にとってこのキリ短での生活は有意義なものとなりました。特に思い出深いのは、学生会活動を通して様々な出来事を体験できることです。学生たちが学園生活を楽しめるように、私たち学生会が主体となりイベントを企画・運営し、教職員をはじめ多くの方々に楽しんでもらい、共に喜びあえたときの感動は今でも心に残っています。このような活動を通して、私の心の中には「共に喜び共にわかつあう心」が生まれました。また積極的に物事に取り組み、前向きに物事を考えるようになりました。私はこれから社会人として歩んでいくわけでありますが、これらの経験を生かし頑張っていこうと思います。



広会書記副会長	報計紀長	新学生会役員(40期)	学生会
川佐久満	白井典えりか	照屋志津香	書記
平安子	井健乃	金陽子	計長
名城健	屋乃江	当桐健	副会長
屋城間	江乃治	間貴子	書記
城間	江治	那津江貴子	計長
間	那	那津江貴子	副会長
		(保育科)	(保育科)
		(英語科)	(英語科)

1996年10月18日に開催された講演会の内容を2回に分けて掲載いたします。
(文責:編集部)

〈第1回〉

40年という月日は、随分いろんなものを変えますね。私が今振り見ていて、緑の島がコンクリートの島になったって感じですよ。それは発展と言いますか、進歩と申しますか、立派なことですけれども、私が知っている沖縄は懐かしい昔の沖縄。そして、首里の教会の一角から、この学校が誕生したわけなんです。非常に小さい学校で先生の数と生徒の数はほとんど同じくらいでしたし、ある時は非常勤の先生を皆入れますと先生の数の方が多かった時がございます。そしてその先生と生徒の数の小さい学校の特色はと申しましたならばそれは“信頼関係”で結ばれていて、先生は生徒を信じるし、生徒は先生を信じていたんです。ですからその一番いい例は、試験の時に監督の先生をつけないシステムにしましたから、試験用紙の問題集を出すと先生は職員室に帰ってきてコーヒーを飲んだ。時間が来て用紙を取りに行ったという時代が、7~8年ありましたかねー。卒業生の方、覚えてますか? それである時「先生カニギングしている子がいますよ。」「そう、そりゃ残念ね。ですけど、このシステムは変えませんよ。」と言って守っていた時代がったのでございます。



今は、どうでしょうか。先生方は、目を光らせて監督してるんでしょうか。先生が生徒を信頼できるという事、生徒が先生を信頼する事ができるという事が、学校の一番大事な精神だと思うのです。ところが、今の日本の教育を見ていると、とんでもない。先生は生徒を怖がっているし、叱る先生は余りいません。私共が昔40年前にこの学校を開いた時、私はよく叱りましたねー。なぜなら、叱る事も教育の一つだと思っていましたから。ある時ね、いつでも遅刻してくる生徒がいるんですね男の子で。そして「あなたは、どうしていつでも5分~7分ぐらい遅刻するの。」って言いましたら、バ



スが来なかったの、何とか言ってました。だけど、そのうちにね、「先生、学校が早く始まりすぎると。」そう言いますから、「そう、それだったら、明日から遅くしましょう。」そう言って、15分学校の始まりを遅くしたことがあります。そうしましたら、やっぱり遅刻するんですね。それからは叱りましたね。「人のせいにしなさん。社会が悪いとか、生まれが悪いとか、あるいはバスが来ないとか、学校が早く始まりすぎると、人のせいにしなさん。あなたが自分を教育できないで、他の人は教育してくれないので。だから、ちゃんと時間どおりに来なさい。うちなータイムは世界に通じないのよ。」って、叱った事があるんですが、10年前に私が帰って来た時に、その昔の叱った生徒が「先生、覚えてますか?」「覚えているわよ。あなたでしょ、いつも遅刻するのは!」って言いましたら、「先生に叱られて、僕はあのようにして自分の子どもを教育しています。」「それは、結構。」そういう時代だったんですね。つまり、私が別に怒ったんじゃないですよ。怒るっていうのは感情的になること。叱るっていうのは別のことですよね。そして教師が、(私だけじゃありませんよ、他の先生方もみんな)自信を持って叱っていたんです。それがいい学校んですよ。ですから、英語では『Dependable』と申しますが「あなたに頼んだら大丈夫、仕事を任せたら大丈夫、あなたにお願いしたら大丈夫、頼んだら最後までやってくれる、そういう人におりなさい。」それが、卒業生ですよね。私は、数多くの『Dependable』の卒業生を出していることを伺って、大変うれしく思います。

さて、本日は「異文化の中に生きて」という題の講演会ですが、私は外地に住んで40になります。沖縄も含めてですよ。と言うのは、私は東京に生まれて、東京しか知らないで、東京で育った人間ですが、それが外地に来て40年、いわゆる異文化の中に自分の生涯の半分以上を過ごしました。半分以上過ごしてきて、決して外地に住むということは易しくない。それは、皆さんもご承知だと思いますが、自分の育った所、いわゆる自分の文化から、他の文化の中に生きると言うことは、まず第一に言葉が違いますよね。沖縄で首里の方言だの、那覇の少し元気のある方言だの、糸満の方言だの、いろいろやってみて勉強しようと思ったんですけども、ある方が「先生、そんなお止めなさい。できっこないから。方言なんて覚えなくてもいいのよ」と言わされて、たった一つ覚えたのが“いっぺーにふぇーでーびる”

前田伊都子先生 特別講演会

本学
チャペル

異文化の中に生きて

どこでも通じますから、それだけ覚えました。

さて、私は今アメリカにいますから、英語で話しています。英語と日本語の違いは、日本語というものは動詞が最後にくるんですよね。英語というのは動詞がすぐ先に出てくるんです。だから、日本語には言訳するみたいな理由付けの言葉がたくさん出てきて「だから、ピクニックには行きません。」と言うことになる。英語では「行きませんなぜならば…」になるんです。そういう考え方の違いみたいなものは、英語と日本語の言葉の中に出てくる訳なんです。ですから、物の考え方方が、動詞が先に出てくる物の考え方と動詞が後から出てくる物の考え方とでは、かなり違うわけですね。ですから、異文化の中に住んでいますと、まず第一にしなければいけないことは、順応すること(Adjust)なんです。その中で一人でもがいていましたら、くたびれちゃいます。ですから、一応は順応するわけです。言葉や生活様式や、食べ物にも順応するんです。そしてその中で、自分がその人たちと同じようになろうと心掛けることでしょうね。真似じゃないんですよ。真似してもアメリカ人のようにするのではありません。彼らの中に入っていくなら抵抗をしない。これが順応です。順応してきてから、もう一つの段階に入ってくると、それは、取り入れる(Adapt)ということです。私も彼らと同じようにやりますよという気持ちでそれを取り入れる事。もちろん言葉は、そのようにしなければ覚えられません。

ちいち日本の英語教育のように、文法がどうの、こうの言ってたら話はできませんよ。ですから、彼らが話すように話しているわけです。それは、真似しているのではなくて、取り入れた事なんですね。その次にくる段階は、受け入れる(Accept)ことです。だから、自分で順応しそこに慣れ、そして自分で取り入れ、そして自分で選んで、受け入れる。だから、私は3つのAが大事だと思って、ここ40年生きてまいりました。ボリビアに行ったらボリビアのように、ブラジルへ行ったらブラジルのように、アメリカにいればアメリカのように、まず順応する。そして、その中から選んで自分が取り入れる。そして最後に、それを受け入れて自分なりに熟していく。それが異文化の中での生き方だと思っております。

(次号につづく)

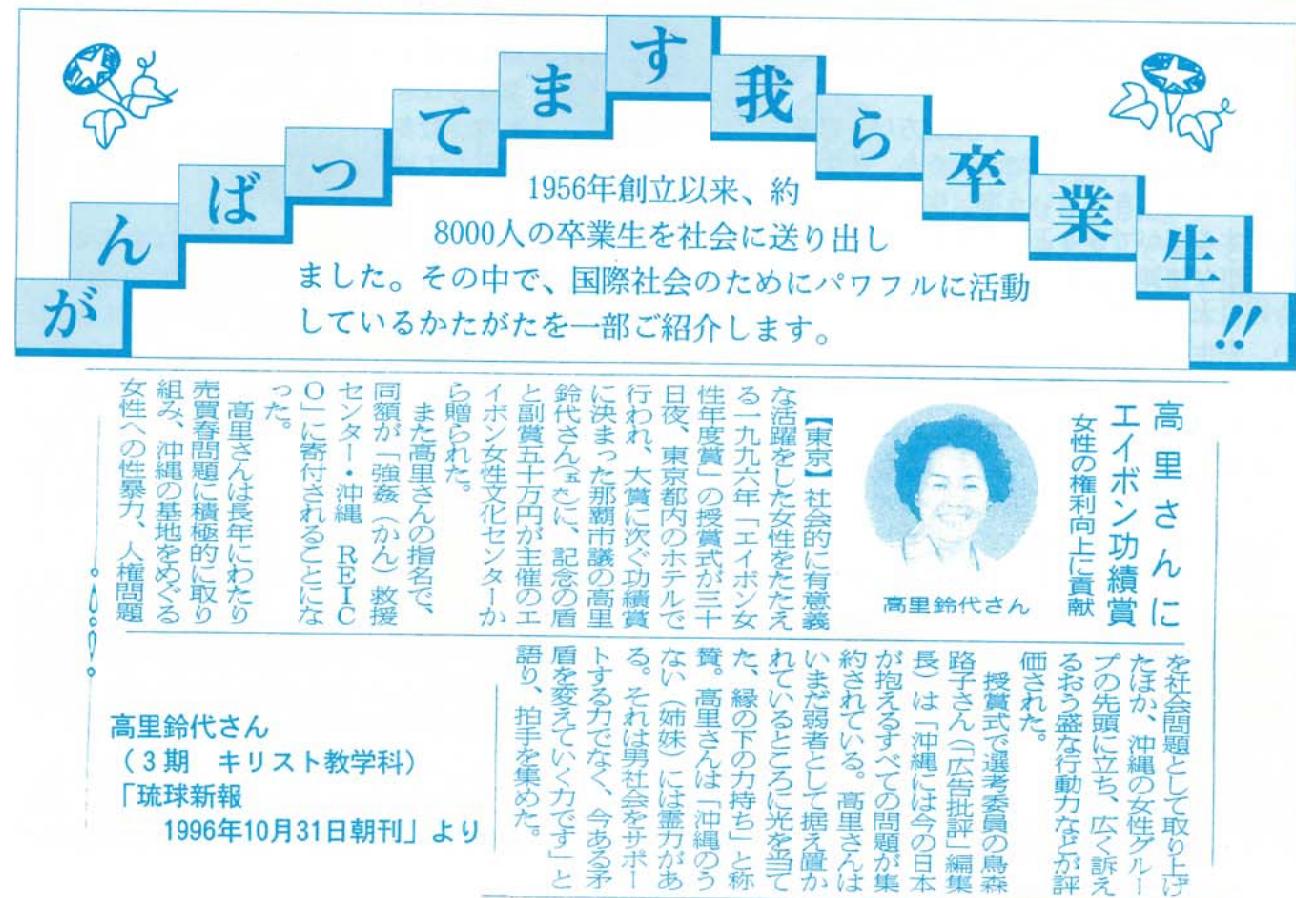
—講師 前田伊都子先生 ご略歴—

主な学历

1941年 青山学院大学神学部卒業
1942年 日本女子神学専門学校卒業
1954年 イースタン・メノナイト大学（宗教教育学）卒業（米国）
1956年 レキシントン神学大学（宗教教育学）卒業（米国）

主在經間

1941年～1945年	女子聖学院・聖書学教授
1947年～1953年	恵泉女学院・キリスト教教育ディレクター
1956年～1966年	沖縄キリスト教短期大学教授
1966年～1984年	パラグアイ、ボリビア、アメリカなどの各国で、 教育者として宣教師として国際的に活躍された。



「香港が私に与えたもの」

38期保育科卒 兼 島 綾 (香港日本人たんぽぽ幼稚園教諭)

1996年4月3日、その日は沖縄も少し肌寒かったのを覚えている。その同じ日、私は初めて香港の地に降りた。飛行機の窓から見た香港は、色とりどりの横文字の巨大な看板と、まるで高さを競い合うかのように空に向かって立ち並ぶビルの群れだった。その風景も次第に目の奥から溢れてくる大粒の涙で、にじんで見えにくくなった。「これを最後の涙にしよう」そう心に決めた涙だった。

朝8時までに幼稚園に行き、子ども達が登園していくまでの間に保育室の環境を整え、朝の打ち合せをする。そして子ども達を受け入れ、午後2時までの5時間半、子ども達と共に新しいことを発見し、新しいことを学んでいく。全ての仕事が終わりふと帰りがけに空を見上げると、ビルの隙間からのぞくジグソーパズルのような夜空には、小さな星が輝いていた。

私が、この新しい生活を異国之地香港でスタートさせてから、早10ヶ月の月日が流れている。その間に私が出会ったもの、発見したものは数え切れない程ある。初めて聞いた時、怒鳴られている

アメリカ講演を終えて

劇団アカバナー座長 森山涼子

(28期英語科卒 仲西中英語教諭)

“パンサーイやったぁハリウッド・デビュー！”
昨年9月15日と18日に、ロス・アンジェルスの
Norris Theatreと、ハワイの県人会館にて当
英語劇団アカバナーの「仏桑華～AKABANA～」
海外公演を無事終了し帰ってきた。英語が第一言
語である米国で、果たして私たちの英語が、そ
して琉球芝居が通用するだろうか？なにしろキリ短
のメルローズ時代から、かれこれ10数年、英語で
郷土の芝居を世界へといい続けてきたわけで、県
内での舞台でも、数多くの外国人から賞賛されて
はきたものの、やはり本場での反応が気になった。
しかしその解答は“Excellent！”ロスの劇場は満



ような気がした広東語がその1つだ。又、ビルのジャングルの合間から見えるジグソーパズルのような空もそうであるし、香港の繁華街に敷かれている地下鉄もそうだ。そして何よりもこの異国之地で出会ったクラスの22名（帰国した子も含める）の子ども達が、香港での最大の出会いであり、最大の宝物であろう。

今、私は激動の年、中国返還を間近に控えた香港の地に置かれている。この激動な事件をきっかけに又新たな変化が伴なうであろうこの香港は、私にどのような興味深いものに出会わせてくれるだろうか？今からそれを楽しみにしている。

※他にも、増沢みぎわ、喜友名さおりが、同幼稚園にて就職し頑張っている。



員、ハワイのセンターも700名余りの観客が、私たちの芝居を見に来てくれた。中にははるばるケンタッキー州から來た方もいた。1世2世の方々は、涙ながらに私たちの手を握り「沖縄の若者が、こんなに英語がうまいなんて驚いた」とほめてくれた。また、日本語を解しない3世4世などの若者たちは、セリフを聞くたびに、即座に敏感な反応を返してくれた。彼らは又、私たちの衣装（着物）と立ち居振る舞いに「琉球王朝時代の雰囲気が味わえた」といたく感激していた。今回の海外公演で、国際語である英語で、琉球の伝統文化、琉球芝居を海外に伝えることの価値が確認でき、今後の励みとなることは間違いない。次回はニューヨークか？はたまたシアトルか？

また、キリスト教短期大学同窓会や恩師の皆様、そして卒業生の皆様からの寄付の中から、ロスとハワイの県人会へそれぞれ\$1,000ずつ贈呈してきたことをここに報告したい。特に、ロスの県人会はスラム化する地区から、治安の良い場所へ移転するための資金に充てたい。と大変喜んでくれたことも、あわせて報告する。

なお、当劇団では、団員を募集中。ハリウッド・デビューに興味のある方はお気軽に、どうぞ。

キャンパス ニュース



本学を去るにあたり

英語科助教授
友利 廣

将来の夢を託し大学へ入学しながら、学業の中途で断念に追い込まれる学生が毎年見受けられる。Aさんもその内のひとり。連帯保証人に名を連ねた父親が借金を背負い込み、その返済のため彼女は大学を去っていった。しかし、学業断念に至るまでには学資を稼ぐなど本人なりの努力があった。相談を受けながら応えること叶わず、その間に夜間勤務の無理が重なり体調を崩した彼女は、病院への入退院を繰り返した後、大学を去っていった。それぞれの事情は違っても、不本意のまま大学を去っていく学生と接するに、私自身のかつての経験が重なり、思いを巡らすことがある。しかし、本人が希望をもつてことにあたれば、必ずや報われることを信じて疑わない。中途で大学を去っていった多くのAさんに奮起を促したい。

本学で教鞭をとった5年の歳月が過ぎた。しか

し、今年の4月からは大学改革に取り組む沖縄大学で教育研究活動に従事する。4年制学部併設計画や短期大学改革と、山積みする難題を前に本学を去ることに心残りがない訳ではない。それでも研究を深め新たな分野へ挑戦する上で、環境の変化も必要と受け止めている。

沖縄キリスト教短期大学を去るに際し、創立者達が標榜した平和の砦として、また、福音主義にもとづく県内唯一の大学として、その精神を守り続けていくことを願わざにはおれない。特に、社会的混迷の渦中に宗教そのものもあるだけに、本学の果たすべき役割は強調してもし過ぎることはなかろう。

長い間ありがとうございました。

コンピュータ・秘書学概論・情報処理理論・プログラミング理論・システム設計演習の専門科目を担当され、英語科のビジネス関係、特に秘書士教育にご尽力くださいました。心より感謝申し上げます。友利先生は常に温顔を絶やさぬやさしい先生ですが、授業には厳しかったようです。今後の先生のご活躍を期待しています。（編集部）

同時通訳者基礎養成講座

英語科助教授 山里 恵子

第4回目を迎えた当講座は、初日に台風に見舞われ波乱にとんだ幕開けとなりました。しかし、担当講師のご熱意と受講者の努力でもって予定の授業内容を総てこなす事が出来たのは幸いでした。

今回の講座についていくつかの特長を紹介します。

まず、キリ短の学生については受講希望者が予想をはるかに上回りました。スクリーニングの結果23人の学生が受講許可となり、その内5人は再受講者で同時通訳者への道を本格的に歩み出した学生です。実に喜ばしい限りです。

次に、県内大学間で締結されている「単位互換協定」を活用した事が挙げられます。即ち、他大学（名桜大学）の学生がキリ短の学生と同じ条件で当講座を受講しました。

当講座は、学生ばかりでなく社会人へも門戸を開いています。今回特に注目を引いたのは、既に通訳者として活躍されている方の参加でした。より良い通訳活動の為にと当講座を活用されたようです。

さて、日本私学振興財団は、当講座の有意義性

部署長等人事 (任期：1997年4月～1999年3月)

宗教部長 神山繁實	保育科長 神里博武
教務部長 下地玄毅	総合教育系主任 渡久地政順
学生部長 喜友名静子	カウンセラー 渡久山朝裕
図書館長 漢那憲治	国際交流室長 James A. Ross
英語科長 前里光盛	四大設置事務室長 比嘉健次郎 (1996年8月～1998年7月)

を認め1996年度「特色ある教育研究」補助対象として認定しました。補助金が交付されます。また、県も当講座は、予定より10名増員した事により財政的援助をいただきました。私学振興財団からの援助で機器「同時通訳システム」を購入し設置する計画が進められています。更により良い設備で受講者を迎える事が出来ると共に、上級講座の開設も可能となりました。

1997年度は、これまでの「同時通訳者養成基礎講座」に代わり、「同時通訳Ⅰ（上級コース）」と「同時通訳Ⅱ（上級コース）」の2コースを設け、上級コースでは、異文化コミュニケーション・スペシャリストを養成する準備に取りかかっています。このことが県の国際都市計画に貢献できるようにと願っています。多くの学生、社会人の受講を歓迎いたします。

『沖縄キリスト教短期大学紀要』（第25号）を12月に発行した。執筆・内容は次の通り。

巻頭言

原 喜美

論文

L. E. アリソン 喜友名 静子	"Habitat for Humanity" 計画に呼応して 幼児のコンピテンスの発達に及ぼす幼稚園教育 効果
山里 恵子	時間的制約下の第二言語学習における読書感想文と対話能力の関係－短大生の場合－
新垣 友子	琉球方言の母音の長さとアクセントの類別 －沖縄本島北部・金武方言の場合－
新川 右好	Mark Twain の Adventures of Huckleberry Finn 再読 キリ短生の食生活の現状－摂取食品数にみる－
比嘉 京子 長嶺 明子	中級前期の日本語学習者への文法指導 －作文指導との関連性－
佐久木 朝一	日本人型人事評価システムによる自発的労働意欲の形成
渡久地 啓	失業率に関する一考察

資料

大城 宜武、中村 完、柳原 健次	中学生における日常生活の構造
山城 真紀子	幼児の基本的生活習慣に関する調査研究 －母親の対応と習得度を中心に－
西平 章子	保育科における英語教育の一考察 －モンゴメリー作「赤毛のアン」について－

第8回高校生英語弁論大会開催

1996年12月14日 本学チャペル

国際化時代において、国際人育成のため英語教育の充実・発展を願って、下記の企業及び団体の協力を得て、今年も恒例の弁論大会が行われた。

共催：琉球放送

協賛：大城組 創和ビジネス・マシンズ

大晋建設 南西石油 金秀本社 文教楽器

日本アイ・ビー・エム 西原球陽堂

丸正印刷 沖縄科学AVセンター

沖縄キリスト教短期大学同窓会

後援：沖縄県教育委員会

ガリオア・フルブライト沖縄同窓会

沖縄県人材育成財団 西原町教育委員会

那覇西ロータリークラブ

国際協力事業団沖縄国際センター

米国総領事館 沖縄タイムス社

沖縄県高等学校英語教育研究会

沖縄県内の高校21校が応募し、静かな中にも熱き弁舌戦がくりひろげられた。結果は次の通り。



まるで漫画の様な！

総合教育系教授

大城 宜武

1995年8月末に、韓国からファクシミリが届いた。小著『漫画の文化記号論』（1987年、弘文堂）を韓国で翻訳出版する許可を求めたものであった。当方に否やはなかった。これはファンタジーだ。ファクシミリの送り主は韓国の漫画評論家で新聞記者でもある金さんという。直ちにファクシミリの連絡が往復した。年内に出版したいとの事であったが、図版の版権の問題、翻訳上のあれこれ解決すべき事が重なり、年明け1月、5月と予定は変更の連続、ついに12月に刊行の運びとなった。



私は、常々マンガこそ海外に紹介すべき日本を代表する文化であると主張して来た。その一端が海外で実現したことを探りたい。

1位 パンニヤ・バネッサ（那覇西高校3年）

2位 永田 美也子（開邦高校2年）

3位 又吉リサ（宜野湾高校3年）

なお、入賞者にはそれぞれ賞金と賞状が授与された。

公開講座のご案内!!

（前期定例講座）

4月開校予定の公開講座は、次の通りです。

講座名	講師名	期間
ギリシャ語初級Ⅱ	神山繁實	4/8～7/22
キリスト教神学入門講座Ⅰ	”	4/15～7/15
カウンセリング	渡久地政順	4/10～7/17
カウンセリング初級	渡久山朝裕	4/10～7/17
保育者のための腹話術入門	春風トシロー	4/8～7/22
基礎英会話	T. Padamovsky	4/8～7/22
”	S. Hirata	4/11～7/18

受付期間：1997年3月24日(月)～4月4日(金)

問い合わせ先：事務局 企画課 TEL 098-946-1240



